ウ.皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。
エ.合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等への使用は避けることが望ましい。
オ.金属器具を長時間浸漬する場合は、腐蝕を防止するためにベンザルコニウム塩化物0.1%溶液に0.5～1.0%の亜硝酸ナトリウムを添加すること。
カ.皮革製品の消毒に使用すると、変質させることがあるので使用しないこと。

【薬効薬理】
本剤は使用濃度において、栄養型細菌（グラム陽性菌、グラム陰性菌）、真菌等には有効であるが、結核菌及び大部分のウイルスに対する殺菌効果は期待できない。

【取扱い上の注意】
1.開封時及び開封後は、微生物による汚染に注意すること。
2.本剤は滅菌製剤なので、開封後は速やかに使用すること。

〈調剤包装単位用コード〉
(01)10498721238414

〈販売包装単位用コード〉
(01)14987211138414

使用後、フィルムをはがしてキャップをはずした後、空容器を図のようにして折り目を外側に押しつぶして下さい。

キャップ：PP
ボトル：PP
ラベル：PS

開封日　　年　　月　　日

外用殺菌消毒剤（滅菌製剤）

日本薬局方 ベンザルコニウム塩化物液

0.2w/v%ヂアミトール®水

0.2w/v%

0.2w/v% Germitol Water

500mL

製造番号

使用期限

発売元
㊟丸石製薬株式会社
大阪市鶴見区今津中2-4-2

製造販売元
日興製薬株式会社
岐阜県羽島市江吉良町1593

0.2w/v%ヂアミトール®水

2015年5月改訂（第3版）	
日本標準商品分類番号	872616
承認番号	20800AMZ00782
薬価収載	1996年7月
販売開始	1996年9月
再評価結果	1982年8月

貯　　法：室温保存
使用期限：3年（表示の使用期限を参照すること。）

【組成・性状】
1.組成
100mL 中
ベンザルコニウム塩化物　0.2g（0.2w/v%）含有。
2.性状
無色～淡黄色澄明の液で、特異なにおいがある。
本品は振ると強く泡立つ。

【効能・効果】【用法・用量】

効能・効果	用法・用量（ベンザルコニウム塩化物濃度）
手指・皮膚の消毒	通常石けんで十分に洗浄し、水で石けん分を十分に洗い落とした後、ベンザルコニウム塩化物0.05～0.1%溶液に浸して洗い、滅菌ガーゼあるいは布片で清拭する。術前の手洗の場合には、5～10分間ブラッシングする。
手術部位（手術野）の皮膚の消毒	手術前局所皮膚面をベンザルコニウム塩化物0.1%溶液で約5分間洗い、その後ベンザルコニウム塩化物0.2%溶液を塗布する。
手術部位（手術野）の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒	ベンザルコニウム塩化物0.01～0.025%溶液を用いる。
感染皮膚面の消毒	ベンザルコニウム塩化物0.01%溶液を用いる。
医療機器の消毒	ベンザルコニウム塩化物0.1%溶液に10分間浸漬するか、又は厳密に消毒する際は、器具を予め2%炭酸ナトリウム水溶液で洗い、その後ベンザルコニウム塩化物0.1%溶液中で15分間煮沸する。
手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒	ベンザルコニウム塩化物0.05～0.2%溶液を布片で塗布・清拭するか、又は噴霧する。
膣洗浄	ベンザルコニウム塩化物0.02～0.05%溶液を用いる。
結膜嚢の洗浄・消毒	ベンザルコニウム塩化物0.01～0.05%溶液を用いる。

0.2w/v%ヂアミトール®水

【使用上の注意】
1.重要な基本的注意
（1）原液は刺激症状があらわれることがあるので、皮膚・粘膜に付着しないように注意すること。また、眼に入らないように注意すること。原液に接触した場合には直ちに水でよく洗い流し、適切な処置を行うこと。
（2）炎症又は易刺激性の部位（粘膜、陰股部等）に使用する場合には、**濃度に注意して**、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。また、使用後は滅菌精製水で水洗すること。
（3）深い創傷又は眼に使用する希釈水溶液は、調製後滅菌処理すること。
2.副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
過敏症：発疹、そう痒感等の過敏症状（頻度不明）があらわれることがあるので、このような場合には使用を中止すること。
3.臨床検査結果に及ぼす影響
本剤で消毒したカテーテルで採取した尿はスルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。
4.適用上の注意
（1）**人体**
1）投与経路：**経口投与しないこと。浣腸には使用しないこと。**
2）使用時：
ア.粘膜、創傷面又は炎症部位に長期間又は広範囲に使用しないこと（全身吸収による筋脱力を起こすおそれがある）。
イ.密封包帯、ギプス包帯、パックに使用すると刺激症状があらわれることがあるので、使用しないことが望ましい。
（2）**その他**
1）調製方法：
ア.希釈液として塩類含量の多い水又は硬水を用いないこと。
イ.繊維、布（綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等）は本剤を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。
2）使用時：
ア.血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合は、十分に洗い落としてから使用すること。
イ.石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。

【使用上の注意】つづく ↗